

平日ラグビー教室 運営の手引き



(公財) 日本ラグビーフットボール協会

はじめに

日本ではラグビー部がある中学校は一部の地域に限られ、中学生が日常的にラグビーを楽しめる環境が少ないのが現状です。平日の練習環境が整わないことで、小学生のころからラグビーに親しんでいたプレーヤーや、中学校に進学してラグビーに関心を持った生徒が他の種目に流出してしまうことが日本ラグビーの課題のひとつに挙げられています。

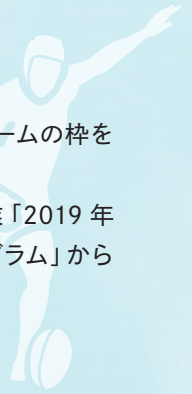
(公財)日本ラグビーフットボール協会(JRFU)では中学校年代の空洞化の課題解決に向け、次の機会を提供する平日ラグビー教室に取り組んできました。

- ・ラグビースクール経験者が中学進学後もラグビーに触れることができる機会
- ・週末のみの練習となるラグビースクールやジュニアクラブ所属選手の練習機会
- ・他のスポーツに取り組む中学生がラグビーに触れる機会
- ・試合や大会出場を目的としない「スポーツ参加」を希望する中学生の運動機会
- ・所属ラグビースクールやジュニアクラブ以外の指導者から技術指導を受ける機会

平日ラグビー教室は対外試合などのチーム活動はなく、プレーヤー一人ひとりが学校やチームの枠を超えてラグビーを楽しく学ぶ場であることも特徴のひとつです。

本書では、平日ラグビー教室が全国に広がることを目的に、JRFU がスポーツ庁委託事業「2019 年ラグビーワールドカップ普及啓発事業」において実施した「スポーツ庁放課後ラグビープログラム」から得たナレッジをまとめました。

地域のニーズ、リソースに合わせた平日ラグビー教室の開催に本書をご活用ください。



スポーツ庁放課後ラグビープログラムとは

JRFU では、平日ラグビー教室のモデル事業として、スポーツ庁（開始当初は文部科学省）から委託された「2019 年ラグビーワールドカップ普及啓発事業」において平成 24 年度に「スポーツ庁放課後ラグビープログラム」を立ち上げました。

スポーツ庁放課後ラグビープログラムでは、各教室の指導者にトップアスリートや引退選手等を活用することで「人材の好循環」や「スポーツ NPO 育成」といったスポーツの連携・協働にも取り組み、そのモデルを提示することでラグビー普及の促進につなげています。



スポーツ庁放課後ラグビープログラムの歩み

平成 24 年度に神奈川県でモデル事業が開始されて以降、参加選手や保護者をはじめ、指導に当たったコーチや地域のラグビー関係者からも毎年高い評価を得てきました。

平成 25 年度には関東（神奈川県）、関西（滋賀県）、九州（沖縄県）の三地域で各 1 クラスが開催され、翌 26 年度にはラグビー人口の少ない地域やトップリーグのチームも加わり 5 クラスに発展し、平成 27 年度から 30 年度はラグビーワールドカップ 2019 日本大会の開催都市での本事業実施により、同大会に向けた機運醸成にも寄与しました。

トップリーグのチームや大学等の教育機関、地域ラグビーフットボール協会、NPO など様々な団体の協力を得ることで多様なモデルケースのノウハウが蓄積されるとともに、「スポーツ庁放課後ラグビープログラム」の知名度が高まりました。

これを受け、令和元年度（平成 31 年度）は全国から開催団体を募り、5 クラスで実施。このほか、本事業に類する平日ラグビー教室が全国的に立ち上がっています。

福岡県
H26 年度 31 名
H27 年度 32 名
H28 年度 32 名
H29 年度 32 名
H30 年度 30 名

兵庫県
H28 年度 35 名
H29 年度 7 名
H30 年度 8 名

滋賀県
H25 年度 32 名
H26 年度 12 名
H27 年度 11 名

熊本県
H30 年度 14 名

沖縄県
H25 年度 17 名
H31 年度 24 名

徳島県
H26 年度 25 名

大分県
H27 年度 32 名
H28 年度 17 名
H30 年度 30 名

愛知県
H28 年度 53 名
H29 年度 27 名
H30 年度 31 名

大阪府
H27 年度 29 名
H28 年度 33 名
H29 年度 11 名
H30 年度 10 名

静岡県
H27 年度 24 名
H28 年度 19 名
H29 年度 19 名
H30 年度 18 名
H31 年度 21 名

神奈川県
H24 年度 16 名
H26 年度 24 名
H28 年度 34 名
H29 年度 36 名
H30 年度 28 名

北海道
H28 年度 25 名
H29 年度 26 名
H30 年度 35 名

岩手県
H28 年度 22 名
H29 年度 19 名
H30 年度 16 名
H31 年度 17 名

群馬県
H26 年度 30 名
H27 年度 31 名

埼玉県
H27 年度 31 名
H28 年度 49 名
(30 名、19 名)
H29 年度 63 名
(33 名、30 名)
H30 年度 90 名
(61 名、29 名)

千葉県
H31 年度 50 名

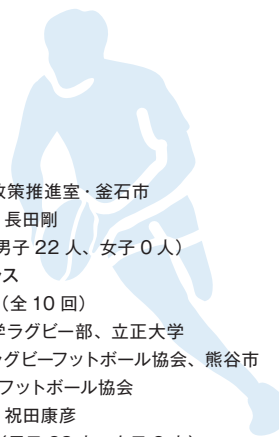
東京都
H26 年度 31 名
H27 年度 62 名
(34 名、28 名)
H28 年度 37 名
H29 年度 70 名
(36 名、34 名)
H30 年度 83 名
(43 名、40 名)
H31 年度 38 名

のべ1,679名!

平成 30 年度に参加した小中学生※の約 93 パーセントが「平日に行われる“放課後ラグビー”があったら今後も参加したい。」と回答し、全国的に高いニーズがあることが認められています。

※スポーツ庁放課後ラグビープログラムの一部クラスでは中学校進学を控えた小学校 5・6 年生も受け入れています。

スポーツ庁放課後ラグビープログラム開催実績



◆ H24年度 (2012年度)

◆神奈川クラス

期間 1/18 ~ 2/21 (全 12 回)
協力団体 (一社) ラグビーパークジャパン
コーチ 川合レオ、林拓司
参加人数 16 人 (男子 15 人、女子 1 人)

◆ H25年度 (2013年度)

◆関東クラス (神奈川)

期間 1/18 ~ 2/21 (全 12 回)
協力団体 (一社) ラグビーパークジャパン
コーチ 川合レオ、伊藤宏明
参加人数 24 人 (男子 19 人、女子 5 人)

◆関西クラス (滋賀)

期間 12/23 ~ 3/17 (全 12 回)
協力団体 立命館大学ラグビー部
コーチ 向山昌利、富岡耕児
参加人数 32 人 (男子 31 人、女子 1 人)

◆九州クラス (沖縄)

期間 12/18 ~ 3/19 (全 12 回)
協力団体 沖縄県ラグビーフットボール協会
コーチ 安村光滋、松井誠
参加人数 17 人 (男子 15 人、女子 2 人)

3 クラス合計

参加人数 73 人 (男子 69 人、女子 4 人)

◆ H26年度 (2014年度)

◆群馬クラス

期間 10/1 ~ 12/17 (全 12 回)
協力団体 パナソニックワイルドナイツ
コーチ 水間良武、三宅敬
参加人数 30 人 (男子 26 人、女子 4 人)

◆東京クラス

期間 10/2 ~ 12/18 (全 12 回)
協力団体 リコーブラックラムズ
コーチ 川合レオ、田沼広之
参加人数 31 人 (男子 29 人、女子 2 人)

◆滋賀クラス

期間 10/6 ~ 2/2 (全 12 回)
協力団体 びわこ学院大学
コーチ 向山昌利、西山栄二
参加人数 12 人 (男子 12 人、女子 0 人)

◆徳島クラス

期間 11/6 ~ 2/5 (全 12 回)
協力団体 徳島県ラグビーフットボール協会
コーチ 真矢健、村岡陽平
参加人数 25 人 (男子 25 人、女子 0 人)

◆福岡クラス

期間 11/14 ~ 2/13 (全 12 回)
協力団体 九州共立大学
コーチ 下園博信、松本健志
参加人数 31 人 (男子 27 人、女子 4 人)

5 クラス合計

参加人数 129 人 (男子 119 人、女子 10 人)

◆ H27年度 (2015年度)

◆群馬クラス

期間 10/5 ~ 1/25 (全 11 回)
協力団体 群馬県ラグビーフットボール協会
コーチ 三宅敬、石橋昇
参加人数 31 人 (男子 29 人、女子 2 人)

◆埼玉クラス

期間 9/11 ~ 11/27 (全 12 回)
協力団体 立正大学
コーチ 太田正則、祝田康彦
参加人数 31 人 (男子 28 人、女子 3 人)

◆東京世田谷クラス

期間 10/1 ~ 12/17 (全 12 回)
協力団体 リコーブラックラムズ
コーチ 武川正敏、後藤崇志、森谷和博
参加人数 34 人 (男子 24 人、女子 10 人)

◆東京町田クラス

期間 9/8 ~ 12/8 (全 12 回)
協力団体 キヤノンイーグルズ
コーチ 小畑江至、瓜生靖治
参加人数 28 人 (男子 26 人、女子 2 人)

◆静岡クラス

期間 10/5 ~ 1/25 (全 12 回)
協力団体 静岡県ラグビーフットボール協会
コーチ 村上勇、奥村祥平
参加人数 24 人 (男子 23 人、女子 1 人)

◆滋賀クラス

期間 9/14 ~ 12/21 (全 12 回)
協力団体 びわこ学院大学
コーチ 向山昌利、西山栄二
参加人数 11 人 (男子 11 人、女子 0 人)

◆大阪クラス

期間 10/6 ~ 12/15 (全 12 回)
協力団体 近鉄ライナーズ
コーチ 南條賢太、竹田良信、射手矢なづき
参加人数 29 人 (男子 17 人、女子 12 人)

◆福岡クラス

期間 9/11 ~ 11/27 (全 12 回)
協力団体 福岡大学
コーチ 村上純、鶴丸誠、西浦達吉
参加人数 32 人 (男子 31 人、女子 1 人)

◆大分クラス

期間 10/2 ~ 12/18 (全 12 回)
協力団体 日本文理大学
コーチ 岩崎伸吾
参加人数 32 人 (男子 30 人、女子 2 人)

9 クラス合計

参加人数 252 人 (男子 229 人、女子 23 人)

◆ H28年度 (2016年度)

◆北海道札幌市クラス

期間 9/7 ~ 11/9 (全 10 回)
協力団体 北海道ラグビーフットボール協会、認定
NPO 法人北海道バーバリアンズ RSC
札幌市スポーツ局スポーツ部
コーチ 長谷川竜介、小野田保、菊池直哉、今井翔
太

参加人数 25 人 (男子 25 人、女子 0 人)

◆岩手県釜山市クラス

期間 9/7 ~ 11/16 (全 10 回)
協力団体 釜山シーウェイブス RFC、岩手県政策

地域部政策推進室・釜山市

コーチ 松原裕司、長田剛
参加人数 22 人 (男子 22 人、女子 0 人)

◆埼玉県熊谷市クラス

期間 9/1 ~ 11/3 (全 10 回)
協力団体 立正大学ラグビー部、立正大学
埼玉県ラグビーフットボール協会、熊谷市
ラグビーフットボール協会

コーチ 太田正則、祝田康彦
参加人数 30 人 (男子 28 人、女子 2 人)

◆埼玉県狭山市クラス

期間 10/5 ~ 11/15 (全 10 回)
協力団体 セコムラグビー部、特定 NPO ワイルド
ナイツスポーツプロモーション

コーチ 三宅敬、西村築
参加人数 19 人 (男子 19 人、女子 0 人)

◆東京都世田谷クラス

期間 9/6 ~ 11/15 (全 9 回)
協力団体 リコーブラックラムズ
コーチ 武川正敏、後藤崇志、森谷和博
参加人数 37 人 (男子 36 人、女子 1 人)

◆神奈川県横浜市クラス

期間 9/14 ~ 11/16 (全 10 回)
協力団体 関東学院大学、関東学院大学ラグビー部、
神奈川県ラグビーフットボール協会
コーチ 青木雅仁、竹田正明
参加人数 34 人 (男子 31 人、女子 3 人)

◆静岡県静岡市クラス

期間 10/7 ~ 12/9 (全 10 回)
協力団体 静岡県ラグビーフットボール協会
コーチ 村上勇、奥村祥平
参加人数 19 人 (男子 19 人、女子 0 人)

◆愛知県豊田市クラス

期間 9/15 ~ 12/26 (全 9 回)
協力団体 トヨタ自動車ヴェルブリッツ、豊田市教
育委員会
コーチ 横田俊光、廣瀬佳司
参加人数 53 人 (男子 48 人、女子 5 人)

◆兵庫県神戸市クラス

期間 12/7 ~ 2/22 (全 10 回)
協力団体 JR 西日本ラグビー部レイラズ、一般
社団法人 PRAS
コーチ 富岡耕児、梶原隼平
参加人数 35 人 (男子 25 人、女子 10 人)

◆大阪府大阪市クラス

期間 10/3 ~ 1/23 (全 10 回)
協力団体 株式会社 areaH、近鉄ライナーズ、東
大阪市、大阪府ラグビーフットボール協会
コーチ 南條賢太、射手矢なづき
参加人数 33 人 (男子 28 人、女子 5 人)

◆福岡県福岡市クラス

期間 9/6 ~ 11/8 (全 8 回)
協力団体 福岡大学、福岡大学ラグビー部
コーチ 高井明彦、築城康拓
参加人数 32 人 (男子 31 人、女子 1 人)

◆大分県別府市クラス

期間 10/5 ~ 12/14 (全 10 回)
協力団体 立命館アジア太平洋大学、立命館アジア
太平洋大学ラグビー部
大分県ラグビーフットボール協会、別府市
ラグビーフットボール協会
コーチ 下園博信、松本健志
参加人数 17 人 (男子 17 人、女子 0 人)

12 クラス合計

参加人数 356 人 (男子 329 人、女子 27 人)

◆H29年度(2017年度)

◆北海道札幌市クラス

期間 7/5 ~ 9/6 (全10回)

協力団体 北海道ラグビーフットボール協会
札幌市スポーツ局スポーツ部

コーチ 長谷川竜介、菊池直哉、今井翔太、平塚勇介、立野弘高、笠井建士

参加人数 26人 (男子25人、女子1人)

◆岩手県釜石市クラス

期間 7/12 ~ 11/15 (全10回)

協力団体 釜石シーウェイブスRFC
岩手県文化スポーツ部ラグビーワールド
カップ2019推進課
岩手県政策地域部政策推進室、釜石市

コーチ 松原裕司、長田剛

参加人数 19人 (男子18人、女子1人)

◆埼玉県熊谷市クラス

期間 7/6 ~ 10/5 (全10回)

協力団体 立正大学、立正大学ラグビー部
埼玉県ラグビーフットボール協会
熊谷市ラグビーフットボール協会

コーチ 太田正則、祝田康彦

参加人数 33人 (男子30人、女子3人)

◆埼玉県狭山市クラス

期間 12/5 ~ 2/13 (全9回)

協力団体 セコムラガッツ

コーチ 三宅敬、西村築

参加人数 30人 (男子30人、女子0人)

◆東京都世田谷クラス

期間 7/1 ~ 9/17 (全9回)

協力団体 リコーブラックラムズ、世田谷区ラグビー
フットボール協会

コーチ 武川正敏、春口翼、森谷和博

参加人数 36人 (男子33人、女子3人)

◆東京都日野市クラス

期間 10/12 ~ 12/14 (全10回)

協力団体 日野レッドドルフィンズ

コーチ 片倉史隆、伊藤宏明、清水佳忠

参加人数 34人 (男子29人、女子5人)

◆神奈川県横浜市クラス

期間 7/5 ~ 10/25 (全10回)

協力団体 関東学院大学ラグビー部、神奈川県ラグ
ビーフットボール協会

コーチ 青木雅仁、竹田正明

参加人数 36人 (男子32人、女子4人)

◆静岡県静岡市クラス

期間 9/1 ~ 11/3 (全10回)

協力団体 静岡県ラグビーフットボール協会

コーチ 村上勇、奥村祥平

参加人数 19人 (男子16人、女子3人)

◆愛知県豊田市クラス

期間 7/26 ~ 10/4 (全10回)

協力団体 トヨタ自動車ヴェルブリッツ
ラグビーワールドカップ2019愛知・豊
田開催支援委員会

コーチ 横田俊光、廣瀬佳司

参加人数 27人 (男子26人、女子1人)

◆大阪府東大阪市クラス

期間 9/7 ~ 11/16 (全10回)

協力団体 areaH、アナン学園高等学校、大阪府
ラグビーフットボール協会
Hanazono Athlete Academy

コーチ 南條賢太、竹田良信

参加人数 11人 (男子0人、女子11人)

◆兵庫県神戸市クラス

期間 9/19 ~ 11/20 (全8回)

協力団体 神戸親和女子大学

コーチ 但尾哲哉、平尾剛

参加人数 7人 (男子0人、女子7人)

◆福岡県福岡市クラス

期間 7/3 ~ 9/11 (全10回)

協力団体 福岡大学、福岡大学ラグビー部

コーチ 村上純、高井明彦、築城康拓

参加人数 32人 (男子31人、女子1人)

12クラス合計

参加人数 310人 (男子370人、女子40人)

◆H30年度(2018年度)

◆北海道札幌市クラス

期間 6/13 ~ 8/29 (全10回)

協力団体 北海道ラグビーフットボール協会
札幌市スポーツ局

コーチ 長谷川竜介、笠井建志、馬淵勝、吉田甲大、
菊池直哉、立野弘高、

Ken Dobson

参加人数 35人 (男子31人、女子4人)

◆岩手県釜石市クラス

期間 6/20 ~ 11/29 (全10回)

協力団体 釜石シーウェイブスRFC
釜石市ラグビーワールドカップ2019推
進本部

コーチ 松原裕司、佐伯悠、中野裕太

参加人数 16人 (男子14人、女子2人)

◆埼玉県熊谷市クラス

期間 6/7 ~ 8/30 (全10回)

協力団体 立正大学ラグビー部
埼玉県ラグビーフットボール協会、熊谷市
ラグビーフットボール協会

コーチ 太田正則、祝田康彦

参加人数 61人 (男子52人、女子9人)

◆埼玉県狭山市クラス

期間 11/27 ~ 2/12 (全10回)

協力団体 セコムラガッツ

コーチ 三宅敬、西村築

参加人数 29人 (男子28人、女子1人)

◆東京都世田谷区クラス

期間 7/17 ~ 9/25 (全9回)

協力団体 リコーブラックラムズ

コーチ 武川正敏、春口翼、大山地

参加人数 43人 (男子40人、女子3人)

◆東京都日野市クラス

期間 7/31 ~ 1/31 (全8回)

協力団体 日野レッドドルフィンズ

コーチ 片倉史隆、後藤翔太、清水佳忠

参加人数 40人 (男子37人、女子3人)

◆神奈川県横浜市クラス

期間 6/27 ~ 10/10 (全10回)

協力団体 関東学院大学ラグビー部、神奈川県ラグ
ビーフットボール協会

コーチ 高山国哲、竹田正明

参加人数 28人 (男子22人、女子6人)

◆静岡県静岡市クラス

期間 9/7 ~ 11/9 (全10回)

協力団体 静岡県ラグビーフットボール協会

コーチ 村上勇、奥村祥平

参加人数 18人 (男子15人、女子3人)

◆愛知県豊田市クラス

期間 7/18 ~ 10/3 (全9回)

協力団体 トヨタ自動車ヴェルブリッツ
ラグビーワールドカップ2019愛知豊田
開催支援委員会

コーチ 馬場美喜男、渡辺哲也

参加人数 31人 (男子30人、女子1人)

◆大阪府東大阪市クラス

期間 12/5 ~ 2/27 (全10回)

協力団体 areaH、アナン学園高等学校
大阪府ラグビーフットボール協会
Hanazono Athlete Academy

コーチ 南條賢太、竹田良信

参加人数 10人 (男子0人、女子10人)

◆兵庫県神戸市クラス

期間 10/8 ~ 12/3 (全8回)

協力団体 神戸親和女子大学、神戸親和女子大学ラ
グビー部

コーチ 但尾哲哉、平尾剛

参加人数 8人 (男子0人、女子8人)

◆福岡県福岡市クラス

期間 12/12 ~ 1/25 (全10回)

協力団体 福岡大学、福岡大学ラグビー部

コーチ 村上純、築城康拓、坂田幸範

参加人数 30人 (男子29人、女子1人)

◆熊本県玉名市クラス

期間 12/5 ~ 2/25 (全10回)

協力団体 熊本県ラグビーフットボール協会
玉名市ラグビーフットボール協会

コーチ 仲山延男、久家博樹、南翔悟

参加人数 14人 (男子11人、女子3人)

◆大分県臼杵市クラス

期間 8/29 ~ 10/31 (全10回)

協力団体 臼杵市ラグビーフットボール協会
大分県ラグビーフットボール協会

コーチ 広瀬貴行、吉良嘉人

参加人数 30人 (男子25人、女子5人)

14クラス合計

参加人数 393人 (男子334人、女子59人)

◆H31年度(2019年度)

◆岩手県釜石市クラス

期間 9/4 ~ 11/27 (全10回)

協力団体 釜石シーウェイブスRFC
釜石市ワールドカップ2019推進本部

コーチ 佐伯悠、中野裕太

参加人数 17人 (男子14人、女子3人)

◆千葉県浦安市クラス

期間 11/7 ~ 2/13 (全10回)

協力団体 NTTコミュニケーションズシャイニング
アークス
浦安市、浦安市教育委員会、
浦安市ラグビーフットボール協会

コーチ 斎藤 展士、目崎 啓志

参加人数 50人 (男子47人、女子3人)

◆東京都日野市クラス

期間 9/3 ~ 11/12 (全10回)

協力団体 日野レッドドルフィンズ

コーチ 片倉史隆、清水佳忠

参加人数 38人 (男子36人、女子2人)

◆静岡県静岡市クラス

期間 9/6 ~ 11/29 (全10回)

協力団体 静岡県ラグビーフットボール協会

コーチ 村上勇、奥村祥平

参加人数 21人 (男子20人、女子1人)

◆沖縄県読谷村クラス

期間 10/24 ~ 1/23 (全10回)

協力団体 読谷村ラグビーフットボール協会

コーチ 林拓司、山内省吾

参加人数 24人 (男子17人、女子7人)

5クラス合計

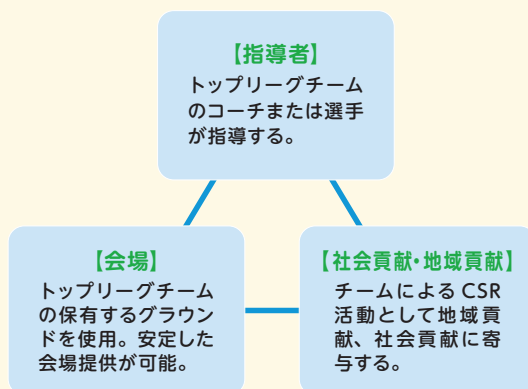
参加人数 150人 (男子134人、女子16人)

スポーツ庁放課後ラグビープログラム 運用事例

先述のとおり、スポーツ庁放課後ラグビープログラムは多様な形態の団体にご協力いただきモデルケースの蓄積に取り組んできました。

ここでは、①トップリーグチーム型、②教育機関型（大学等）、③地域ラグビーフットボール協会型の特徴とそれぞれのモデルケースについて紹介します。

◆トップリーグチーム型



チームの地域貢献活動として （東京都日野市クラス）

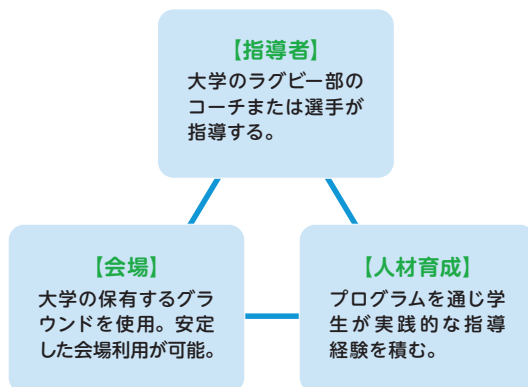
片倉 史隆

日野レッドドルフィンズ テクニカルコーチ

日野レッドドルフィンズは「地域住民と交流することで地域密着型のクラブを目指す」ことをモットーとしており、スポーツ庁放課後ラグビープログラムは「ラグビー普及活動」と併せて「地域貢献」を担う活動と位置付けられています。現役選手やチームOBはサポートコーチとして参加することでコーチングスキルをブラッシュアップでき、このことはチームの将来構想にある「チーム独自のスクール設立」に向けた基盤構築にも役立っています。

また、地域のラグビースクール関係者にもサポートコーチに加わっていただくことで近隣のラグビースクールと良好な関係が構築でき、より一層地域に根差した活動へつながりました。

◆教育機関型（大学等）



大学生が指導経験を積む場に （福岡県クラス）

村上 純

福岡大学スポーツ科学部教授
福岡大学ラグビー部部長

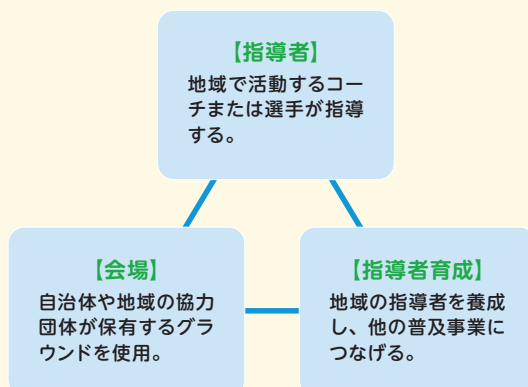
福岡大学ラグビー部には中学校・高等学校の保健体育科教諭を志すものも少なくありません。

スポーツ庁放課後ラグビープログラムでは、メインコーチ、アシスタントコーチのもとラグビー部員が子どもたちの指導に当たり指導経験を積んでいます。

また、このプログラムを教育実習に向けて指導計画を作成する場としても活用し、学生が作成した指導計画を担当教諭がチェックするという、より実践的な教育の機会として取り組みました。

大学の施設を利用し地域の子どもたちがラグビーに親しむ機会を提供することを通じ学生が成長できることは、教員養成に取り組む本校にも大変貴重な機会となりました。

◆地域ラグビーフットボール協会型



自治体と連携したラグビー普及 （北海道札幌市クラス）

長谷川 竜介

北海道ラグビーフットボール協会
札幌支部コーチ委員長
札幌ラグビーアカデミー アシスタントコーチ&事務局

スポーツ庁放課後ラグビープログラムを RWC2019 に向けた機運醸成事業に位置付けることで、RWC2019 の開催都市である札幌市と連携し、札幌市が保有する施設を優先して使用することができました。

また、北海道ラグビー協会では小学校でタグラグビーに親しんだ児童が中学校進学後にプレーできるラグビー部の創設を目指しており、本事業は中学校の先生方を指導者として育成する機会にもなりました。平成 30 年度に札幌市立の中学校でラグビー部が創部できたことは大きな成果のひとつです。平成 31 年度は札幌南ロータリークラブ様より協賛金をいただき継続した活動を行っています。

スポーツ庁放課後ラグビープログラム 卒業クラス 運営事例

モデル事業として取り組んできたスポーツ庁放課後ラグビープログラムは大きな広がりを見せ、現在全国各地で開催される平日ラグビー教室が立ち上がっています。ここでは、スポーツ庁放課後ラグビープログラムの卒業クラスがそれぞれの地域特性や各団体の特色を生かして取り組む事例を紹介します。

CASE 1

地域リソースの活用

玉名ラグビーアカデミー（熊本県玉名市ラグビーフットボール協会）

小さなコミュニティの利点を活かし、地域のリソースを活用して通年開催しています。

天候に左右されず教室を開催できることから屋内で練習しています。公共の体育館を利用することで会場費を抑えました。体育館の予約は毎月先着順のため、都合のつく保護者が申込みを担当しています。また、会場費や用具代は玉名を離れた仲間がサポートしています。

ラグビー協会の指導者に加え、地元整骨院の柔道整復師がアジリティトレーニングを担当するなど、地域の大人がそれぞれに無理なくできることを担うことで、負担が集中しない仕組みを作り、継続的な開催が叶っています。

CASE 2

産官学の連携

豊田スポーツアカデミー（豊田スポーツアカデミー）

RWC2019 のレガシーの一環としてトヨタ自動車（株）、豊田市役所、中京大学が連携したアカデミーを設立。「産・官・学」がそれぞれの強みを生かして取り組みました。

産は日本トップレベルの環境やコーチや機材の提供、官は周知力や協会など他機関との連携、学はスポーツに対する知識や技術を生かすことで、参加者が安心して学べる環境を提供しました。また、スタッフや練習会場を継続的に確保できることで、継続性を持った活動ができました。この結果、産には社会貢献、ラグビー普及や集客を、官には RWC2019 のレガシーの創出を、学には専門知識・技能などの実習場の確保など、三者に多くのメリットをもたらす大変貴重な機会となりました。今後も関係機関の強みを活かし積極的に活動を推し進めていきたいと考えています。

CASE 3

助成金の活用→受講料（受益者負担）による運営

ラグビーパークアカデミー（一般社団法人ラグビーパークジャパン）

有料グラウンドを使用した有給のプロコーチによるアカデミーを開催しています。

2010 年に神奈川県横浜市でアカデミーを始めた当初は、月謝（受益者負担）だけでは運営が困難だったこともあり、日本スポーツ振興センターの toto 助成^{*}を受けて活動しました。グラウンド代、用具代、講師謝金と講師交通費の助成を受けた 3 年の間に生徒数を増やし、4 年目からは月謝のみで運営できる体制を整えました。

有料のグラウンドを使用し、有給のコーチを配置するアカデミー開催の挑戦は、主催者が開催経費をすべて負担するリスクもありましたが、toto 助成を活用できたことでそのリスクも回避でき、とてもありがたかったと感じます。その後は、運営が軌道に乗った横浜クラスの利益を転用し、月謝のみで運営する神奈川県藤沢クラスと鷺沼クラスを開校しました。ここでも有料フットサルグラウンドを使用しています。

2010 年のアカデミー設立当初は 3 名だった生徒数は、現在およそ 200 名となり、すべてのクラスが月謝のみで運営されています。

※独立行政法人日本スポーツ振興センター（JSC）が、「スポーツくじ（toto・BIG）」の収益を財源として、地方公共団体やスポーツ団体が行うスポーツ活動等に対して実施する「スポーツ振興くじ助成」。

このケースでは「スポーツ団体スポーツ活動助成 < スポーツ活動推進事業 > ア）スポーツ教室、スポーツ大会等の開催」を活用。

チーム活動を行わない平日ラグビー教室にあっても、指導者に求められる姿勢は変わりません。ここでは練習メニュー作成のベースとなる考え方と、これに基づいて実際に行われた練習メニューについてご紹介します。

JRFU の一貫指導について

日本のラグビーに関わるすべてのプレーヤーを対象とした育成指導のためのプログラム（Development Program）の骨格を示した「JRFU コーチングの指針」において、日本におけるラグビー指導の柱となる指導方針を示しています。人を導き、育てる役割を担うコーチには、人間的な魅力や経験に加えて、さまざまな知識や専門性が求められます。国際競技力向上を視野におきつつ、安全を最優先しながら、プレーヤーの主体性を重視し、ゲームの質や技能向上を促進するため、そしてプレーヤーが誰の指導を受けても安全で、かつ健全に、楽しくプレーし向上していくための一貫した指導のあり方について「JRFU コーチングの指針」を踏まえたコーチングを常に心がけてください。



JRFU コーチング部門が監修する「コーチングツールボックス」では、「コーチングの指針」をはじめ各年代の指導に関する情報を提供しています。

コーチングツールボックス



<https://www.jrfu-corch.com/>



ラグビーの価値とインテグリティ

ラグビーに関わる人々（選手、指導者、観客、選手の家族、協会関係者など）には、ラグビーの場だけでなく日常生活や社会生活の場において、インテグリティという言葉が意味するところの「品位」「高潔さ」「健全性」を実現するための行動が求められます。

JRFU のホームページで紹介している「インテグリティの追求」の学習資料／研修資料／e-Learning を通じて、インテグリティ／コンプライアンスの理解を深めてください。



<https://www.rugby-japan.jp/jrfu/integrity>

参考練習動画

スポーツ庁放課後ラグビープログラムのホームページでは小学校 6 年生と中学生を対象とする練習動画を紹介しています。この映像は放課後ラグビープログラムの埼玉県・熊谷市クラスで実際に行われたメニューです。



①ウォーミングアップ、②フィジカルトレーニング、③キャッチ&パス、④少人数アタックスキル、⑤ディフェンスラインスキル、⑥コンタクト、⑦ゲーム の7項目にわたる様々なメニューをご覧いただけます。



平日ラグビー教室 開設モデル

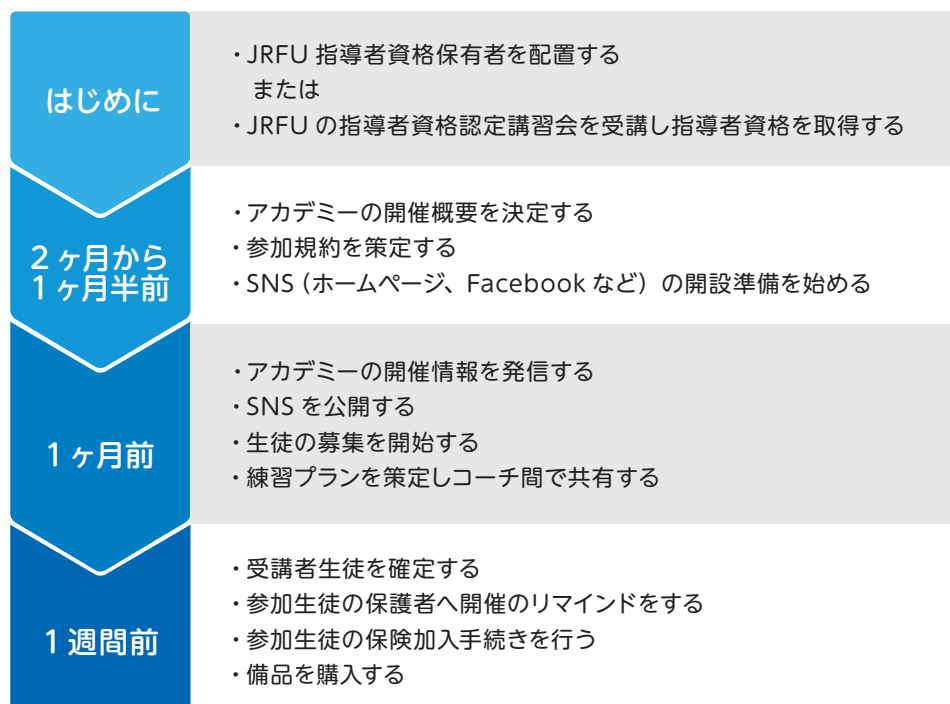
ここからは、実際にクラスを運営するための手続きについてご紹介します。

はじめに、開催に至るまでの諸手続きのスケジュール感についてご紹介します。

適切な指導を行うためには JRFU 指導者資格の保有者が欠かせません。指導者資格講習会の開催情報にも留意し、安全な教室運営の準備をしてください。

また、地域によっても異なりますが、ある程度の受講人数を期待する場合には遅くとも初回開催の 1 か月前にはホームページなどで募集情報を公開するとよいでしょう。

教室の初回開催日から逆算して各種手続きが滞りなく行われるよう取り組んでください。



■月謝について

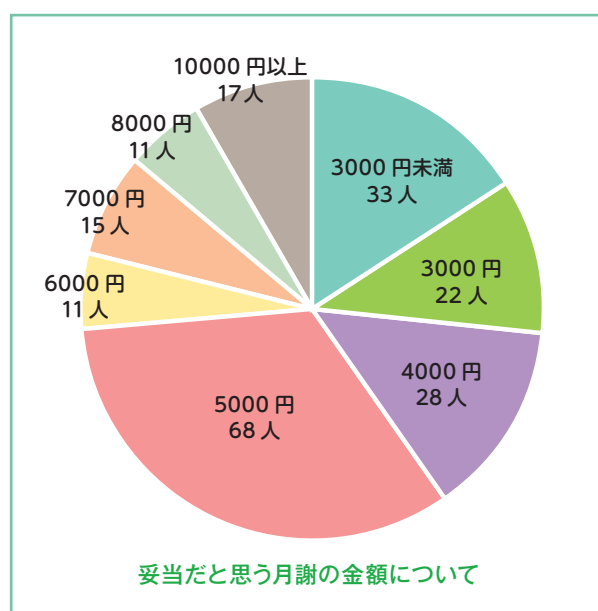
教室を運営する上で、お金の問題は避けて通れません。主催者の負担を軽減することは教室を継続する上で重要なポイントになります。

非営利の場合でも会場費や備品代が生じる場合は参加費から賄えるような工夫も必要です。NPO 法人などの法人格を取得すると、活動費用を管理する銀行口座が開設でき、活動団体の社会的信用が増すことで活動の拡大にもつながります。

また、金額の多寡に関わらず参加費を設けると参加率が上がり、無料にすると欠席率が高くなるケースもあります。

平成 30 年度スポーツ庁放課後ラグビープログラムに参加した生徒の保護者 205 人を対象に行った「月謝制での平日ラグビー教室を利用する場合に妥当だと思う月謝の金額」のアンケート※では、平均金額は 5,000 円となりました。これは平均的な習い事の金額ととらえてよいでしょう。

月謝（受益者負担）によるラグビー教室開催のニーズがあることが明らかになっています。



※月 4 回程度の開催で、JRFU 指導者資格を持つものが指導する条件で尋ねています。



ここでは、開催に必要な事務手続きについてご紹介します。クラスによっては省略できる手続きもあると思いますが、安全を第一に、継続したクラス運営の参考としてください。

■ JRFU 指導者資格保有者の配置

- 1) 指導者資格保有者のコーチを見つける。
- 2) 協力者がいない場合は、指導者資格認定講習会を受講し、新たに指導者資格を取得する。

POINT

安全対策に関する知識や指導者としての基本を学んだコーチが指導することは、参加者や保護者の安心にもつながります。
それぞれの年代に適した指導を安全に行うためにも、JRFU の指導者資格保有者を確実に配置しましょう。

POINT

- ① 終業時間と移動時間を考慮し、中学生は開始時刻を 18:00 以降とすることをお勧めします。
- ② できるだけ同じ曜日で開催した方が参加者が集まりやすいです。部活や他の習い事と調整がしやすくなります。
- ③ 中学生は定期試験前、試験中は欠席が多くなりがちです。
- ④ 帰省やチームの合宿などのため、夏休み期間中は参加人数が少なくなりがちです。

■ 開催地域、時期、時間の検討

- 1) ニーズの高い地域の分析
ラグビースクール、学校のクラブ、タグラグビーの普及状況などをもとに開催ニーズを探りましょう。
- 2) 開催時期、時間の検討

■ 会場施設の確保、交渉・調整業務

POINT

- 1) 会場候補の情報収集
 - ① 継続利用ができるかどうか
 - ② ナイター設備があるか。使用できるか
 - ③ 交通アクセス
 - ④ 更衣室やシャワーが使えるかどうか
 - ⑤ AEDの有無
- 2) 会場との調整、交渉
 - ① 名義後援などがあると借りやすくなる場合があります。(必ずしも効力があるとは限りません)
※ 営利事業の場合には公的機関の後援が得られないことがあります。
 - ② 利用に関する条件やルールなどの確認と交渉
予約、利用スケジュール、使用できる施設や料金などを確認します。
- 3) 契約締結
支払方法、キャンセルの取り扱いについても確認しましょう。
※ 初めて利用する施設の場合、利用許可を得るまで時間を要することがあります。
※ 特に、営利事業として利用する場合には手続きに時間がかかることがあります。

- ① 夕方からの活動のため、日没後の照明が必要です。
- ② 保護者による送迎の対応が可能か、駐車場の利用可否を予め確認するとよいでしょう。
- ③ ラグビースクールでは使用しなかった施設も選択肢になりえます。練習内容に適した施設を検討しましょう。



■ 告知・募集業務

- 1) 募集要項の作成
入会金、月謝の設定や保険料負担など、金銭的な条件を決定しましょう。
対象年齢、性別、ラグビー経験の有無など受講者の条件を決定しましょう。

POINT

コーチの人数が少ない場合は対象年齢を絞った方が指導しやすく、参加者の満足度も高くなります。

- 2) ホームページの制作
募集ターゲットを意識した構成、内容としましょう。
- 3) 地域における情報発信
地域の学校やラグビースクール、自治体などから広報の協力を得られる場合があります。
地域情報誌、新聞、雑誌、ラジオ、テレビなどもコストをかけずに活用できる可能性がある。

POINT

「申込みを受け付けました」のメールを返信すると
申込者の不安軽減にもつながります。
申込みの際に参加規約の同意を得るようにしましょう。
安全管理や免責事項に加え、クラスで撮影した動画・写真
などの肖像権・著作権の所在を明示しましょう。

5 申込み受け付け

ホームページからの申込みにすると 24 時間受け付けできます。情報
の行き違いや誤入力を減らすことができるほか、コスト削減にも
つながり、情報管理も容易になります。

POINT

関係者との情報共有には Google ドライブなどのクラウドを
活用すると更新情報の確認ミスを削減できます。



6 参加者管理・相談窓口業務

- 1) 申込み情報をもとに参加者情報一覧を作成します。
※個人情報が多く含まれるので取り扱いには十分注意して
ください。
- 2) 相談窓口を設けましょう。
 - ① ホームページ上の問合せフォームを活用すると負担軽減
につながります。緊急連絡先として電話での問合せも対
応できることが望ましいです。
 - ② クラス開始後はコーチが現場で対応しましょう。

POINT

スポーツ安全保険などが利用できます。
参加者個人ではなく主催団体が加入手続きを行います。
<https://www.sportsanzen.org/hoken/>

指導者が日本スポーツ協会公認スポーツ指導者または日
本スポーツ少年団資格保有者であれば「公認スポーツ指
導者総合保険制度」が利用できます。
[https://www.japan-sports.or.jp/
coachtabid1168.html](https://www.japan-sports.or.jp/coachtabid1168.html)

7 保険対応業務

- 1) 参加者の保険に加入しましょう。
 - ① 参加者確定後、原則全員の加入手続きをとりましょう。
 - ② 保険は事後加入ができないため、参加前に必ず手続きを完
了してください。
 - ③ 保険料を参加者が負担する場合は保険料を徴収する方法を
検討しましょう。
- 2) 指導者保険
必要に応じ指導者保険に加入しましょう。

8 開催準備

- 1) 備品準備
 - ① 参加者の年齢、人数に合わせて備品を準備します。
 - ② ラグビーボール、マーカー、ビブス、コンタクトバック、
救急箱など必要に応じ用意してください。
- 2) 緊急対応の準備
 - ① 保護者の連絡先や救急病院、会場の緊急連絡先を控えておきましょう。
 - ② AED の設置場所を確認しておきましょう。

POINT

夕方からの活動のため、受傷した場合
は救急病院にかかることとなります。
予め周辺にある救急病院の連絡先を
控えておき、万が一に備えましょう。



POINT

参加規約のなかで
肖像権・著作権が主催者に
帰属することを明確にすることで
参加者が映った動画・写真が
使用できます。

9 実施報告

クラス開催後、ホームページなどの
SNS で実施レポートを発信すると活動
の認知が高まります。
活動の様子がわかる写真や動画も活用
しましょう。

ラグビー指導者資格について

日本ラグビーフットボール協会普及育成委員会ではラグビー指導者の資質および指導力の向上を図り、ラグビーの普及および振興を促進するため、ラグビー指導者資格を制定しています。指導者の入口となるスタートコーチ資格は、2021年度よりオンライン講座で取得することができるようになりました。

平日ラグビー教室においても、適切な指導が行えるよう、指導者講習会を受講いただくことをご検討ください。

指導者資格の詳細は JRFU コーチネットをご参照ください。



JRFU コーチネット



<https://www.jrfucoach.com/>



◀ QRコードからも
ご覧いただけます

ラグビーをやってみたい！
ラグビーを始めたい！

というお子さまには
(公財)日本ラグビーフットボール協会の
ホームページで情報を提供しています。



ラグビーファミリーガイド ▶▶▶



スポーツ庁委託事業「2019年ラグビーワールドカップ普及啓発事業」平日ラグビー教室 運営の手引き

発行日：2020年3月初版、2022年3月2版

発行：(公財)日本ラグビーフットボール協会

住所：〒107-0061 東京都港区北青山2-8-35

電話：03-3401-3289 / FAX：03-5775-5034

印刷・製本 株式会社ダイワクリエイト

本手引きのテキスト・画像の無断転載・複製を固く禁じます。